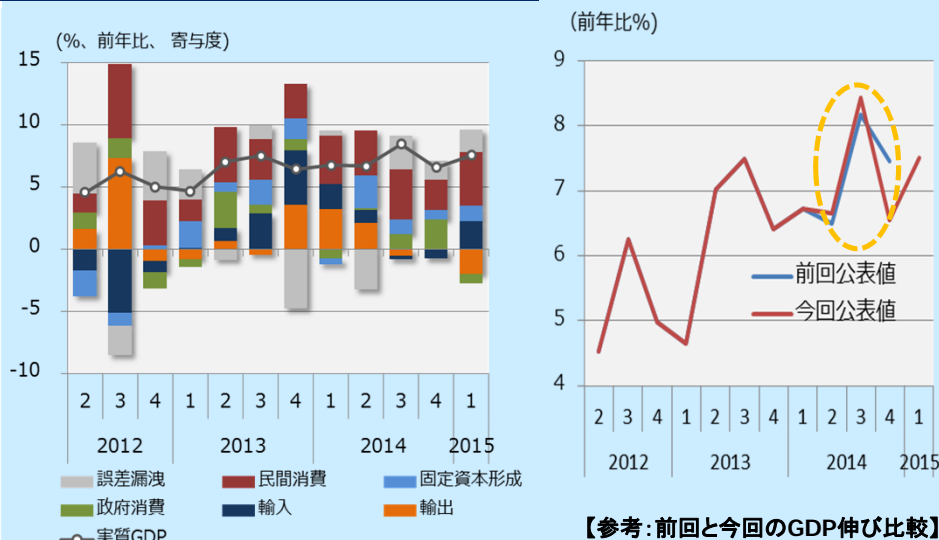


インド：GDP（2015年1-3月期）

MRI Daily Economic Points
June 5, 2015

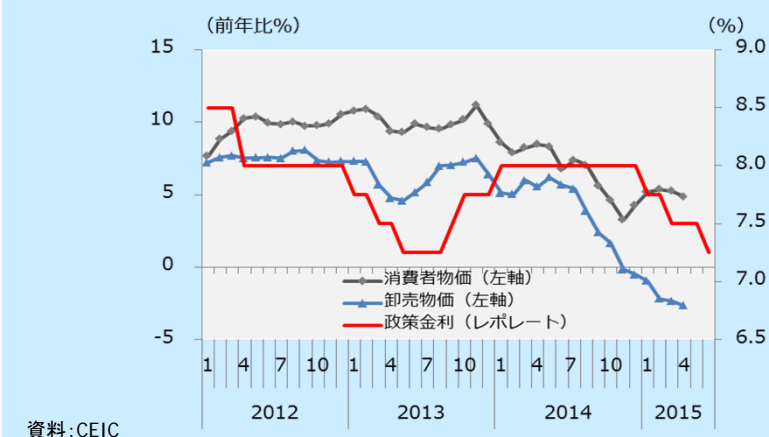
実質GDP成長率



資料：CEIC

資料：CEIC

政策金利、消費者物価、卸売物価



資料：CEIC

評価ポイント

今回の結果

- インドの15年1-3月期の実質GDP(需要側)は、前年比+7.5%と前期(14年10-12月期:同+6.6%改定後)より加速。14年度(14年4月-15年3月)では、前年比+7.3%となり、前年(13年度:同+6.9%)から伸びを高めた。
- ただし、インドのGDP統計は15年1月以降の基準改定の影響を大きく受けており、今回の公表でも過去3四半期が下方修正されたことから、幅を持ってみる必要がある。生産・消費・景況感など他のマクロ指標も含めて判断すれば、緩やかな回復は続いているものの、GDP統計が示す程には加速していない可能性が高い。
- 需要側GDPの内訳をみると、内需は緩やかな持ち直しの動きを続ける一方で、外需環境は悪化している。GDPの6割弱を占める民間消費は、既往の原油安を主因とするインフレ圧力緩和を背景に、1-3月期は前年比+7.9%と前期(同+4.2%)より加速。
- 固定資本形成(GDPの約3割を構成)は、海外からの投資増加などを背景に、1-3月期は前年比+4.1%と前期(同+2.4%)から伸びを高めた。
- 外需をみると、中東向けや中国向けの減少から、1-3月期の輸出は前年比▲8.2%と大幅減少。輸入も国内生産に必要な素材や部品など幅広い財を海外に依存していることから、輸出減少に伴い同▲8.7%と大幅に減少した。

今後の見通し

- 先行きは、①既往の原油安によるインフレ圧力の緩和、②海外からの直接投資の増加、③利下げ効果の波及などから、内需を中心に緩やかながら持ち直しの動きが続くと予想する。③については、インド準備銀行が6月2日に今年3度目の利下げを決定(レポレート:7.5%→7.25%)。金融緩和による景気の下支え効果が期待できる。
- 一方で、輸出の約2割を占める中東向けや中国向けを中心に、輸出の不振が続いており、今後、外需低迷の長期化による国内景気への影響波及に注視が必要であろう。